

関東同窓会のホームページがオープンしています。ご覧ください。
<http://www.h5.dion.ne.jp/~uedakant/>

関東同窓会のe-mail。近況をお知らせください。
uedakant@m4.dion.ne.jp

7月1日(土) 第45回 総会・懇親会に参加しましょう!

母校室内楽班来演決まる!



感動を再び! 今度は聞き逃したくない!

今年の総会では、母校の生徒たちによる弦楽合奏をまた聴かせてもらえることになった。一昨年の演奏に感動した参加者が熱心なラブコールを送り続けた結果である。

室内楽班に入ってくる新一年生はほとんど初心者ばかり。その生徒たちにヴァイオリンとピオラの手ほどきを休日返上で続けているのは77期の土屋正明先生。そして、母校で今、吹奏楽班・クラス対抗合唱祭などの盛んな音楽活動を指導するのが64期の長谷川和生先生である。

室内楽班では、春休み中の合宿と定期演奏会で卒業生を送り、4月に新メンバーを募集した。楽しみと心配半々のスタート(先生談)を切り、長谷川先生の指揮の下、今は文化祭に向けて練習中。3月の信毎「高校入学祝特集ページ」に、県下で注目のクラブ活動として写真入りで掲載されるなど、十年あまりで成長もめざましい。7月1日は、母校の後輩たちのありのままの姿に接する絶好の機会になるだろう。また、同窓生の長谷川、土屋両教諭にも、共にエールを送ろう。(58期・寺島千恵子・記)



大応用数学科を卒業後、大成建設に入り情報システム部門で活躍さ

幹事長候補に笠井徳爾さん61期

今年の関東同窓会総会・懇親会は7月1日、神田一ツ橋の如水会館で開催されます。第45回となり、幹事期は59期、64期、69期、74期、第79期の皆さんで、多数の会員の参加を期待しています。懇親会には一昨年初登場で好評だった母校室内楽班の皆さんに再登場してもらい、演奏して盛り上げて頂くことにしました。

役員改選期だった昨年総会で幹事長が選出できず、成田副会長が引き続き幹事長役を続けてきましたが、今回61期の笠井徳爾さん(現在副幹事長)が幹事長を内諾され、執行部会で総会に幹事長候補として諮ることが決まりました。

笠井さんは1963年卒、東京理科大学大応用数学科を卒業後、大成建設に入り情報システム部門で活躍さ

行かなくても話題になります。新幹事長の就任と激励を込めて、会員の皆さん、総会・懇親会にぜひ参加してください。(55期・宮島光男・記)

総会で選出へ 幹事長候補に笠井徳爾さん61期

60期龍野隆彦さん(上田在住)の写真(右上など)も会場を飾ります。総会の詳細は2ページにもあります。



【総会日時】
7月1日(土曜日)
12時 受け付け開始
13時~16時 総会・演奏会・懇親会

【会場】
如水会館 千代田区一ツ橋2の1
電話 03(3261)1102

【会費】
一般 8000円 学生 無料

地下鉄(半蔵門線・都営三田線・新宿線)
神保町駅下車 A3出口 徒歩3分
地下鉄(東西線)
竹橋駅下車 1b出口 徒歩4分

第45回総会に参加しましょう!

実行委員は、59、64、69、74、79期の方々にお願いします。担当期の方は早めにご参集下さい。

● 式次第 ●

第1部：総会 13:00-13:30

会長挨拶、定例議事、新幹事長選出他

第2部 懇親会 13:40-16:00

大会実行委員長挨拶、母校室内楽班演奏、懇親会

7月1日(土)

如水会館

受付開始12時

● 平成17年度会務報告案 ●

(平成17年4月1日-18年3月31日)

- (1) 第44回総会・懇親会 7月2日(土) 如水会館、参加者は校長、新卒者含め総勢230名の参加者。第1部、定例総会では、新役員承認。第2部懇親会では、母校女生徒ダンス班が来演。一昨年の室内楽班同様参会者の拍手、喝采を得た。
- (2) 会報73、74号を6月、平成18年正月に発行。ホーム・ページの拡充。
- (3) 初の女性会員交流会、母校社会講座に4名の講師派遣。会員文化・芸術活動(ピアノ、バイオリンリサイタル)。
- (4) 上田本部、関西、中南信支部の総会出席、東信、県の高校同窓連総会、新年会に参加。
- (5) 新事務所(新宿四谷)に12月移転。
- (6) 決算・予算(案)は下記に別掲。

● 平成18年度会務計画案 ●

(1) 第45回総会・懇親会

7月1日(土)

如水会館、実行委員、59、64、69、74、79各期の皆さん。懇親会に、一昨年大好評を得た、母校室内楽班招待。

(2) 会報75、76号

夫々5月末、新年に発行。

(3) 会財政強化のため、会費増収、基金運用(法人化)、寄付、広告の募集強化

(4) 文化、芸術、スポーツ活動

(5) 母校社会講座、上田本部、関西、長野、中南信総会への参加

(6) ホームページの活用 会員相互の情報交換、親睦に利用。

(7) 新事務所の積極活用 会議、同期会、同級会等の打ち合わせに利用。

● 平成17年度決算報告案 ●

(平成17年4月1日~18年3月31日) (単位:円)

収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	差額	科目	予算	決算	差額
前期繰越金	293,150	293,150	0	大会費	1,600,000	1,502,333	-97,667
大会費収入	2,000,000	1,576,000	-424,000	会報費	2,300,000	2,221,466	-78,534
会報広告料	200,000	72,000	-128,000	交通費	100,000	72,380	-27,620
年会費収入	3,300,000	2,216,000	-1,084,000	通信費	200,000	172,164	-27,836
会議費収入	250,000	495,000	245,000	会議費	700,000	644,363	-55,637
寄付金収入	300,000	282,000	-18,000	渉外費	230,000	267,175	37,175
雑収入	150,000	197,000	47,000	印刷費	10,000	7,583	-2,417
受取利息収入	0	3	3	事務費	800,000	1,451,475	651,475
(小計)	6,200,000	4,838,003	-1,361,997	雑費	100,000	68,094	-31,906
運営基金利息繰入	500,000	500,000	0	(小計)	6,040,000	6,407,033	367,033
合計	6,993,150	5,631,153	-1,361,997	次期繰越金	953,150	-775,880	-1,729,030
							0
				合計	6,993,150	5,631,153	-1,361,997

● 平成18年度予算案 ●

(平成18年4月1日~19年3月31日) (単位:円)

収入の部				支出の部			
科目	18年度予算	17年度決算	増減	科目	18年度予算	17年度決算	増減
前期繰越金	-775,880	293,150	-1,069,030	大会費	1,300,000	1,502,333	-202,333
大会費収入	1,600,000	1,576,000	24,000	会報費	2,100,000	2,221,466	-121,466
会報広告料	150,000	72,000	78,000	交通費	150,000	72,380	77,620
年会費収入	2,300,000	2,216,000	84,000	通信費	100,000	172,164	-72,164
会議費収入	300,000	495,000	-195,000	会議費	450,000	644,363	-194,363
寄付金収入	300,000	282,000	18,000	渉外費	100,000	267,175	-167,175
雑収入	200,000	197,000	3,000	印刷費	30,000	7,583	22,417
受取利息収入	0	3	-3	事務費	960,000	1,451,475	-491,475
(小計)	4,850,000	4,838,003	11,997	雑費	70,000	68,094	1,906
運営基金利息繰入	1,200,000	500,000	700,000	(小計)	5,260,000	6,407,033	-1,147,033
合計	5,274,120	5,631,153	-357,033	次期繰越金	14,120	-775,880	790,000
				合計	5,274,120	5,631,153	-357,033

運営基金特別勘定

18.3.31現在 (単位:円)

科目	前期繰越	当期	期末残高
運営基金	9,590,000	190,000	9,780,000
同利息	2,464,329	3,219	2,467,548
利息一般会計繰入	-	500,000	-500,000
合計	12,054,329	-306,781	11,747,548

一般会計・特別会計総括表

18.3.31現在 (単位:円)

科目	金額	科目	金額
現金	277,725	運営基金	11,747,548
普通預金	154,770		
郵便振替	1,132,150		
特別会計から一時流用	-2,340,525		
<運営基金用>			
定額貯金	5,207,488		
定期預金	3,792,734		
普通預金	406,801	次期繰越金	-775,880
一般会計へ一時流用	2,340,525		
合計	10,971,668	合計	10,971,668

普通預金: 三井住友/みずほ/東京三菱/UFJ

郵便振替: 新宿花園郵便局 定額貯金: 新宿花園郵便局

定期預金: 三井住友 (備品; パソコン2セット等)



母校便り

藤本新校長就任

藤本校長から、お便りを頂きました。スペースの関係で、一部を掲載させていただきます。



試百難 上田高等学校長 藤本光世

着任してからいくつか感動することがありました。

(感動 その2) 応援練習にて

4月12日(水)から14日(金)までの3日間の日程で応援練習がありました。私は第2体育館の1階の弓道場とその脇を使って行われた2日目と、校庭で行われた3日目に参加することができました。

実は、対面式のときに聞いた、2、3年生の校歌の声がとても小さかったので、このことも気になっていました。

行ってみると、やっています、やっています。応援委員の諸君は背中「上田高等学校応援団」と書いた学ランを着て、整列した一年生の周囲や間を裸足で歩いています。リーダーは正面で、「もっと大きな声が出るはずだ」とやっています。

応援委員の中に、口をはっきりと大きく開けて、自分から大きな声を出して、一年生を激励している生徒が目にとまりました。実に立派です。態度に、一年生に大きな声で校歌を歌って欲しいという願いがあふれています。率先垂範、まず自分でやって見せて一年生から声を引き出そうとする情熱や、上田高校と校歌を愛する心が表れています。一所懸命です。

3日目のグラウンドでは、この生徒が壇上で、リーダーとなって一年

生を指導していました。大きな声がよく通ります。「もっと大きな声が出るはずだ。心をこめて、心で歌って欲しい」と何度も言います。次第に大きな声になって、プラスバンドの伴奏無しで歌うと、校庭に校歌が響きました。

教育のeducateには、能力を導き(duce)出す(e)という意味があります。引き出すといっても良いと思います。人は能力があっても気づかないのです。できない、できっこない、と思っているのです。壁を作っている。応援練習でも大きな声は出ないと思っている。実際に出ない。それを引き出すにはどうしたら良いでしょうか。恐怖を与えたり、威圧をかけたりではダメなのです。心と心が触れ合うしかない。どうしても大きな声で歌わせたいという心が、その心が表れた姿勢が、表情が、動作が、大きな声を引き出したのでした。見事でした。立派でした。私はここに真の教育を見たのでした。終わってグラウンドを出て道路から校舎側の階段を上りかけると、二人のリーダーがとんで来て、「校長先生ありがとうございます」と言うではありませんか。私は何もしてない、何も言葉をかけたわけではない、ただ遠くから見守っていただけ、それなのに私の視線を感じてくれたのでした。なんと感性の豊かな、すばらしい生徒なんだと、これまた感動し、とても嬉しかったのでした。

母校生徒の進路状況

国公立138名。昨年の記録を更新できました。

進路指導室 土屋正明先生

Table with columns for university names, counts, and regional breakdowns. Includes sections for National/University, Private, and Specialized schools.

特別企画 79期座談会

歩んで来た道を振り返って



出席 (79期の皆さん。奥から…)

荻原 貴 (りそな銀行 ソリューションサポート部
新宿中小企業サポートセンター長)

清水 雄至 (国立病院機構 高崎病院 呼吸器医科長)

松尾 弘 (慶應義塾大学 大学院法務研究科 [法科大学院] 教授)

竹鼻ゆかり (東京学芸大学 芸術スポーツ科学系
養護教育講座 助教授)

司会/成田邦夫 (56期・幹事長) /寺島知恵子 (58期・副会長)

/井上 剛 (61期・編集長)

(編集部より) 今号の座談会は、今まで一番若い期の座談会です。働き盛りの忙しい中を、同窓会の事務所にお集まりいただきました。

思い出は、木造校舎と
多彩な行事

成田 79期といえば、昭和37年、38年の生まれですね。

寺島 あら、それでは、私たちの子どもよりちょっと上なのね。

井上 親子の対談みたいですね。皆さん立派な大人で、とても子どもとは思えま

せんが。

竹鼻 同窓会は、これまで、先輩方の方後についてただでしたが、私たちもだんだんそういう世代になってきたのかなあ

寺島 そう。どんどん入ってきてやってください。同窓会は、普段お話しできないような色々な方と、先輩後輩の関係なく対等におつきあいでできるのがよいところ。私もやってきて実感しています。

松尾 同窓会はいくつあるんですか。会費はどちらに払えばいいんですか。

成田 両方(笑)。昔、母校が火事になりました。それも、1年のうちに2度

も。昭和23年、旧制上田中学が上田松尾高校になった時代です。敗戦後、予科練などに行っていた蒼々たる人たちが復学してくる、一方教育の方針はがらりと変わるといって、学園が混乱していた時でした。半鐘がカンカンなうって、当時生徒だった兄貴が防空ずきんをかぶって飛び出して行ったのを覚えていて。それで、校舎を復興しなければならぬということ、関東の同窓生に要請がありました。

また、昭和32年には野球部が甲子園に出場しました。(実は私もその時の選手でしたが…) その時も募金という事で、関東の同窓生が活動しました。それらが元になって、関東の人たちで会を持つという事になったのです。母校の同窓会を応援しながら、しかし、総会と懇親会や会報の発行など独自の活動をしています。だから、会費は両方にはらっていただきたいのです。

井上 皆さんは、どんな高校生活でしたか。



清水 ちょうど、新校舎に建てかえが進んでいた時です。門は古い建物で、開けると中は新校舎。不思議なロケーションでした。でも新校舎に入れたのは3年と2年と1年の1組から6組で、私たちは木造の図書館の2階の2部屋でした。

竹鼻 そうよねえ。チベットと呼ばれていたんじゃない? 思い出した!

(笑) 高校時代の思い出というと、あの古い木造校舎に住んでいたというところが一番です。去年、進路のことで、

現役の生徒にお話を、という事で行きましうたら、もう新校舎が古くなってきたていてるんですね。でも、新校舎の記憶はあまりなくて、木造の理科室が印象的だったと改めて思っています。

清水 私はスポーツが好きでやろうと思っていたんだけど、室賀からなので、帰るのがいつも9時半とか10時でむずかしい。でも、体育の細田先生にハンドボールの授業の時、「お前のシュートは槍のようだ」とか勧誘されてしまっって入ったところ例のインターバル走法をインターハイ選手と一緒に走ってこいと言われて走ったんだけど、最後の200mで思っきり足がつって、限界を感じてやめました。でも、同級生が何人もそういうところだったので、和気藹々とやっていました。スポーツは大学に入ってから6年間ラグビーをやりました。

成田 それでそんなにいい体をしているんだ。

荻原 私は軟式庭球。7割以上が部活で、残っている3分の力で勉強した。インターハイにも団体で行きました。4番目の



新校舎と古い門。不思議なロケーション。



新&旧の校舎。
「上田高校百年史」より

補欠でした。テニス以外の思い出は、松尾祭で、3年の時に《ミス上田》に出場したことです。

成田 文法的におかしいんじゃない？ミス上田って…。

荻原 えっ、無かったんですか？男性が女装して…。ソフトボールをやっていた同級生とペアで、愛の水中花を曲に合わせて。それで最後にサクラで、花束をもらいました。

竹鼻 あーあ、だんだん思い出してくる。なつかしい。

井上 松尾祭は他にどんなことを？

荻原 アンデパンダン展。

寺島 前夜祭とか後夜祭は？

皆さん ……。(あまり記憶ない様子)

井上 フォークダンスは？

清水 どちらかと言えば文芸班中心。

竹鼻 文化祭だと、合唱祭が縦割りのクラス対抗であった。朝早く行って練習した記憶があります。

清水 そうでした。アンデパンダンはクラス対抗、合唱祭は縦割りでした。

寺島 その頃の音楽の先生は？

松尾 永井先生。

清水 僕も選択で音楽をとった。ウサギウサギを自分で編曲したり、今でも記憶に残っています、メロディーが…。あと、八木節とか…。同期会などにはぜひお呼びしたいと思っています。

松尾 僕は、陸上に入っていて、駅伝をやることになり



高校の85%は部活動に注いでいた。上田公

園の中に陸上競技場があり、そこに毎日スパイクを持ってでかけた。県の高校駅伝が夏と春にあり、また1年の時は長野国体があり、仲間もすごくよかった。学校では部室に鞆も教科書も置いて、部室にいる合間に授業に出るというイメージだった。

(笑い。ワカル、ワカル。) 体育祭の委員長もやりまして、これはすごく大変だった。その後少し病氣したくらい。(笑い)

クラス対抗で、フットボールとか卓球とか色々分かれてポイントを競い、総合ポイントで順位をつけました。

成田 随分色々な行事があつて



立教の経済はマル経なんでしょうね。考え方もマルクスの考え方で、まあ影響を受けるほど

よい青春時代を送られたようですね。ではこの辺で、卒業以後の歩みを伺いましょうか。

皆さんはオイルショックからバブル景気が始まった頃社会人になり、天国から始まって奈落の底にという経済変動を経験される世代ですが、いかがでしたか。

荻原 私は立教の経済に入りました。

勉強もしなかったけど、現実的でないなあと思いつつも、まあ、こういうことも大学の時しかやれないなあと思いつつも、まあ、そういうことになりました。その後ソ連が崩壊してああいう時代が来るとは全然思いませんでした。大学でも軟式庭球は同好会で続け、就職は漠然と金融機関がいいかなあと、まあ安定志向ですね、当時は金融機関なら安定していたので、埼玉銀行に入りました。そして、バブル時代に入って、その後金融不安と、天国から地獄への奈落を経験しました。私の銀行は実質国有化ということになり、同期の人でも、もっと若い人でも違う職に行った人もたくさんいました。拓銀のようにつぶれてしまうということとはなかったけど、まさか自分がこういうことになるとは思いませんでした。

成田 銀行が大変な時はかなり苦しい仕事もあつたんじゃないですか。

荻原 まあ、お客の立場になれば…。銀行は晴れの日に傘を貸し、雨の日に傘をとる、とか言われます。この2月

まで、4年間民間のメーカーに出向していたんですが、そこでは経理の仕事をしました。銀行員だから経理の仕事はできるだろうと一般的には思われるけど、経理といっても資金繰りのことや、対銀行のやりとりはできるけど、簿記は全然別なのです。しょうがないから、日商簿記3級を勉強してとりました。

井上 今は融資という、金融機関本来の仕事ですね。

荻原 支店の営業店で目が行き届かないような小さな先をフォローするような部署でやっています。

清水 私は群馬大の医学部に行き、すぐラグビー部に入って大学生活はそれで明け暮れました。4年の時は、試験勉強も1年間で1週間ぐらい。今は学生さん、そんなことは許されませんが、昔は実習に出ればあとはまあ許されていました。卒業して、人間の命に関わる心臓か呼吸器科を専攻したいと考え大学院に進みました。当時は、研究と臨床を同時にやっていた時代だったので、勤めながら、一日ももう研究日と土、日、それに夜間を使って研究していました。6年目に、完全に細胞生物学をやろうとアメリカに行きました。アメリカでは英語の他に精神疾患についても知らないためで、苦労しました。帰ってきてから教室にもどったけど、この世界は教授にならないとなかなか思うようにならない。その教授は、同じ科に二百何十人か入ってその中で20年に一人教授が出るという世界です。そこで、違う教室のニーズがあつて、その研究をしていたのですが、県内に拠点病院いくつか作って医療を行うシステム

を作ろうという動きがあつて、今それをやろうとしています。

成田 医者は、上田高校にいた頃からの志望だったのですか。

荻原 そうです。命に関わる仕事をしたいと小学校の文集にも書いていました。家がそうというわけではありませんが、弟も長野病院（旧東信病院）で医者をしています。

松尾 僕は高校時代に陸上競技に力を注ぎ込んだので、ここまでやって納得したというところがあつた。3年の時課題図書で福沢の「学問のスズメ」を読んですごく衝撃を覚えて、世の中の仕組みを知りたいなあと言う欲求が強くなった。その時、夏休みに忘れ物を取りに学校に行ったら、慶應大学で推薦入試実施という掲示があつた。これが第一回目なんです。そこに法律というのがあつて、法律は全く知らなかったんですが、世の中の仕組みがわかるんじゃないかと応募したのです。それが通って、結局受験せずに入りました。法学部に入ると、実務家になろうかどうしようかと迷うんですが、社会の仕組みや世界のルールを知りたいという学問的な興味だんだん深くなつていって、法学の分野では法哲学というんですが、それがやりたくて、先生のところに行ったら、「まずは民法をやってください、実務的、実践的なことだけで、我々の身近な権利義務がわかってはじめて社会の仕組みがわかる」と言われて、それも理由がありそうな気がして、本格的な民法を勉強することから始めて、法哲学とか歴史にいきました。

大学院は、歴史的、哲学的観点から現

代の法秩序の問題を見たいと慶應にいったけど、実践的な法律論か、昔の話をや

っている純歴史学の2つに分かれていて両方を結びつけるといのがなかなかできなかつた。たまたま一橋の吉野先生という先生が法の歴史と現代の解釈を結びつけたすごい論文を書いていて。それにあこがれて、全く面識はなかつたんですが、修士論文を出したら、じゃあ、ドクターはこちらでやってみたらどうですかということになった。就職は公募で横浜市立大学に4年間、その後横浜国立大学の大学院の国際経済法学という科で、私がやりたかつた法の歴史と解釈論を結びつける講座ができ、そこに引張られて行き、社会改革のために法整備がどのようになされるか研究していたら、たまたま東西冷戦が終わって、旧社会主義国家が市場経済システムを導入しようとしている時で、民法とか商法とか、市場システムを支える法制度を作らなくてはいけないということ、日本でもこれを支援する事業が始まって、ベトナム、カンボジア、ウズベキスタンなどで、自分が研究してきたことを実践する機会に恵まれました。今は慶應の大学院で法律家を養成すると同時に法政策というか、社会の仕組みを変えていかなければいけない、そのための基礎知識を研究する開発法学というのをやっています。

井上 研究したことが、実際に社会で実践できたのは素晴らしいですね。それも、一橋の先生のところにも自分から行ったのがターニングポイントですね。

松尾 はい。「君、ほんないことをずっと研究していったら就職ないよ。乾パンか

じって研究していくかね」というのが第一声でしたが。(笑い)

竹鼻 私は千葉大の看護教員養成科に入



らしい。女性が世の中に出て行くには資格がなくては難しい時代でした。就職は長野県で高校の教員を9年間。教科指導は勿論ですけど生徒指導に関わるが大変でした。自分の経験よりもっと先に世の中のいろんなつらいことに直面している生徒たちを相手にものを言わなければならぬ。それに疲れた頃結婚して退職しました。大学は卒業後も研究生として籍をおいていて、細く長く続いていたのですが、結婚後、ある時、恩師のお葬式の受付をやっていたら、10年ぐらい先輩の方が、「今何やってるの？ 杏林大学の看護学科に空きがあるから来ないか」と呼ばれて、大学で働くようになりま

した。その時、もう一回しっかり勉強しなければと思ひ、30代になってから大学院に入りました。その後はたまたま家の先2キロの学芸大学で養護教諭養成課程で採用があると公募が出たので、書類を出したら通って今に至っています。高校や大学前半のころは、就職したらこれで終わり、結婚したらこれで終わりという気持ちがあつたんですけど、そんなことはなく、努力すれば道が開けて、いろんな所に進める可能性はいろいろあるなあと、今は思っています。

寺島 そうした生き方が、ある意味、女性が働いていくモデルになるといいですね。

井上 みなさんが歩んで来られた道は立派ですが、振り返れば最初から道はあったのではなく、切り開いてきた道だと言えますね。今日はどうもありがとうございました。

いずみ囲碁ジャパン(有)
代表
内久根孝一(51期)
Tel&Fax 03-5202-6093

土屋 学(31期)
世田谷区松原五・一六・一

株式会社パワースプロジェクトマネジメント
付加価値商品、一貫体制で土地活用をご提案★

ペットマンション
福祉施設
子育てマンション
デザイナーズマンション

お問合せ、資料請求は
☎ 03(5362)0880
✉ ppm@powerspm.co.jp

http://www.powerspm.com/

同窓会を応援します

うえだ人 「信濃路の萬葉集」を出版

有賀治さん (46期)

上田の丘に 「信濃路萬葉公園」を



有賀さんは今、やり場のない怒りと失意にとらわれている。中学校美術教師を定年前に辞め、この20年余り、退職金も注ぎ込んで「上田の丘に信濃萬葉公園をつくらう」と奔走してきた夢が、誰に省みられることもなく潰えようとしているからだ。

「上田は古代信濃文化の中心地。そのふるさとに信濃を詠んだ万葉の古歌を集め、石碑を建て、現代の人々に古くから伝えられてきた文化の香りを知ってもらいたいと念じてやってきました。しかし行政は、金がない、維持できないと見向いてくれない。私の思いを少しでも伝えたいと書いたのが『信濃路の萬葉集』なのです」

旧制上田中学在学時は太平洋戦争終戦前後の荒れた時代だった。日大で造型美術を学び、いったん菅平の中学分教場で美術教師になったが、東京への思い止み難く2年で辞めて上京。東宝に入り、黒沢明監督の映画「7人の侍」などの美術関係の仕事にも参加したが、限界を感じて立川市の中学校美術教師に転じた。そこに30年近く勤め「熱血先生」として父母、子どもたちに慕われた。

有賀さんに転機が来たのは50代のはじめ。奈良・飛鳥で古代文化に触れ、万葉の歌に魅入られたのだ。「甘樫の丘に立って、あの空の広がりがふるさと上田の空に似ていると感じたのです」。万葉集の中から信濃に関係のある東歌や防人歌などを研究、17首を集め、それらの歌を銅板に刻んで、一堂にして公園に建てたい—そんな夢が広がった。「活動できるうちにと教師を55歳でやめ、夢一筋に打ち込んだのです」という。

上田・小牧の丘に退職金の大半を注ぎ込んで200坪の土地を求めた。浅間から菅平・根子岳まで見通せる地だ。「この土地を市に寄付し、そこを核に千坪ほどを確保して、信濃路萬葉公園にしてもらいたいと思ったのです」。その傍ら、10年近くをかけて銅板に17首の歌を自らの手で刻み、準備した。長い病の妻を介護しながらの作業だった。

しかし、厳しい財政を続ける上田市にとって、有賀さんの持ち込んだ「夢」は、検討に値するものではなかった。同期の仲間も動いてくれたが、大した話題にもならないままお蔵入りの状態という。歌が刻まれた銅板は国立の自宅2階のアトリエに積まれたままだ。有賀さんはそんな思いを「信濃路の萬葉集」で知って欲しいと自費出版したという。

ふる里上田市も周辺地域を合併し、益々変貌するこの頃。かつては萬葉時代に信濃の国府であった当時を、この書を通して心静かに振り返ってみては如何か。代金は送料込み2千円。申し込みは郵便振り込みで「口座番号 0 0 1 2 0 - 5 - 7 2 2 4 8 4 有賀治」へ。払込局は東京・国立市西郵便局へ。(宮島光男記)



事務所をご利用ください



第6回ゴルフコンペ報告

現在の執行部になってから初めての同窓会ゴルフコンペを、4月5日(水)、取手市にある藤代ゴルフクラブで開催しました。前執行部時代から数え通算6回目となります。

ゴルフ同好会の呼びかけに応え、27名がエントリー。紳士のスポーツに相応しく、スタート30分前には全員集合。が、当日はあいにく、朝から終日冷たい雨と風。しかし、プレーヤーたちはずぶ濡れになりながら悪戦苦闘の末、全員が無事完走しました。

コンペは、12箇所の隠しホールからハンディを算出するダブルペリア方式で争われ、笠井徳爾さん(61期)がハンディにも恵まれて見事優勝。前田会長寄贈の優勝カップと同窓会からのレプリカが授与されました。

因みに笠井さんの成績は、グロス101、ハンディ30、ネット71。以下、準優勝に君島今朝人さん(48期)、3位久保田達夫さん(58期)、ブービーに長谷川英人さん(65期)。ベストグロスは、井沢敬さん(58期)。

プレイ後の懇親会も大いに盛り上がり、次回はさらに多くの仲間を声を掛け、また秋(10月頃予定)に集まろうと決め、散会となりました。今回参加できなかった皆さん、次回はお待ちしております。ゴルフ同好会幹事 上原 昇(65期)



新宿区四谷4-24-16 御苑ハイム608号室
8人程度の会議に最適。鍵は各期の幹事が持っております。問い合わせ 045-864-5835 (成田)

会員 短信

(氏名の下の数字は卒業期です)

▼中台 秀松(32) 昭和8年卒、90歳。同期の中村禮三君と同窓会で久しぶりに会うことができ、元気で安心しました。自分でも良くここまで生きたと思っ
ています。新会長の前田さんにもお会いできましたが、往年の「上田中学」の(レペルを取
り戻す)ためにも頑張ってください。(牟寿、お元気で)

▼児玉 安彦(40) 80歳を過ぎて同窓会にもご無沙汰して
ます。かつて矢島五郎先輩や同期の小林郷司君が会長の頃は良
く出ていました。台湾に仕事で
赴任中には同窓の方々が十数人
で台湾旅行に来てくれた楽しい
思い出もあります。40期は二ヶ
月に1度、14日に渋谷の料理店
に集まり、上田からの仲間も出
てきて上田の様子も聞きながら
楽しい時を過ごしています。

(世話役は萩原愈君)

▼生島 信夫(41) 新春到着の会報拝読。役員、幹事諸氏の
創意と意気込みに打たれまし
た。特別企画、短信などからは
広い知見や大局観にかかわり、
数々の示唆を受けました。存在
感の豊かさは流石です。

▼金沢 光男(41) 上中を卒業して半世紀以上になりました。05年春、母校正門前に立つて感慨を新たに、環境の良さに喜びを深くしました。た
だいま、当地(新潟県柏崎市)で医療法人、社会福祉法人に関わり
600人ぐらいの職員を見てい
ます。医療・介護保険事業など
関係の方々と当地または近くに
お出かけの際は当法人(公仁会)
の保養所が日本海前にした鯨
波の好位置にありますので、利
用ください。大歓迎です。30人
は泊まりますが古民家を移築し
たものなので20人ぐらいが快適
でしょう。

▼宮下 俊夫(41) お陰様で2008年をスタートできました。81歳を迎え、10年とって71歳の
つもりで後10年ぐらいいは移り変
わりの激しい世の中ですが何と
か皆さんの後をついて行きたい
と思っっています。皆様のご活躍
と会の発展を祈ります。

▼栗田 裕夫(42) 60数年前、上田中学の生徒として入校した
とき、当時の甲田作紀先生から
授業も諸行動も「中学生らしく」
せよと諭されました。この教え
はその後の私を導く言葉として
忘れたことはありません。職務
が変わった時も、また職業が
変わった時も、その地位役割に
ふさわしい人格識見を具備してい
るかどうかを常に反省すべきこ
とを教えられたものと考え、実
行してきました。(ふさわしく
なかった時が多かったのですが
阿々)

▼松岡 秀夫(49) 74号の会
員短信でホームページのURLが
違っています。 URL: <http://www17ocn.ne.jp/~dryas>
(英字はすべて小文字、はチ
ルダです)

▼花岡 潔(49) 今冬はカンパ
と大雪の厳しい寒さが続きまし
た。昨年の叙叙で49期から中
沢重夫君(上田市出身、板橋区
在住)が瑞宝小綬章を受章した
ことを報告します。

▼渡辺 洋一(50) 「学校資料
センター」(大学・短大・専門
学校の入学案内書類及び進学情
報誌の全国高校発送センター)
が1月下旬に田中駅前に完成し
ました(約200坪)。事務職(パ
ソコンのできる人)、管理職、
作業職(パート可)でお手伝い
してくださいる人がいらっしやれ
ば左記へお願いします。
(株)さんぽう 03(33378)
7111 会長渡辺あて

▼武井 厚(51) 昨年3月に
2大学の非常勤講師が終わり、
少し時間ができたので昔の仲間
とのテニス、そして歌舞伎の大
向こうからの掛け声に興じて
います。

▼松崎 義一(52) 昨年9月
に古希を迎えましたが幸い健康

上田球友会総会・新年会報告―幹事 小林清隆(71期)

岡田元東大野球部監督を招いて楽しく懇談

野球人気の凋落が叫ばれる中、WBCで、
王ジャパンが見事世界一となり、国民的に
野球というものが改めて注目されている昨
今です。我々上田球友会は関東在住の上田
高校野球部OBとこれを後援してくださる
賛助会員で構成され、母校野球部への支援
活動や会員同士の懇親など、積極的な活動
を続けております。去る1月22日上野東
天紅で開催された、恒例の総会・新年会は、
地元から、内田野球部長、津金監督、中村
OB会長の参加もあり総勢29名の盛会とな
りました。

本年は特別ゲストとして、元東京大学野
球監督の岡田彬氏にお越し頂き、当時の興
味深いお話を幾つかご披露してもらいまし
た。江川卓を始めとする甲子園常連組中心
の他大学に対する東大の健闘振りは、企業
経営、学校指導者、家庭教育全般に通じる
ものがありました。又当時の東京大学野球
部主将沢沢稔氏(70期)、明治大学野球部主

将でエースだった丸山清光氏(70期)・朝日新
聞、元六大学審判員山崎紀典氏(57期)等、我が
OBに纏わる逸話披露もあり、会は大いに盛り
上がりました。

東大野球部と同様に、私学中心で県外生徒を
入れた強豪校に対抗すべく、母校野球部も懸命
に練習に励んでいるとの報告が内田部長からも
ありました。文武両道に徹した基本に忠実なブ
レーで三度目の甲子園出場を果たしてもらいた
いものです。関東同窓会の皆様のご支援
よろしくお願いたします。

なお、総会に先立って、昨年暮に急逝された
石井正彦OB(59期)・元文芸春秋写真部長)に全
員で黙祷をささげました。



「東大野球部が江川に初めて勝った」と
当時を語る岡田元監督





関東54期会 新年会に総勢40名

関東54期会は、1月14日、乃木坂・健保会館において新年会を開催、総勢40名が集まった。

まず、恒例の同期生による講演会は、西上田出身の中島隆之君が講師となり、演題は「音声情報の魅力と盲点」。命題の「自分の思いは他人に正確に伝わり、また、自分は他人の言葉を正確に理解しているか」について、「我々が意識している世界は、耳や目から入る信号そのものではなく、それを元に、脳内ですでに記憶されている膨大な知識で解釈した結果として作り上げられた『ありありとしたイメージ』である」という学術的内容をユーモアたっぷりに制限時間一杯を使って講演、参加者全員を堪能させてくれた。

続いて、現在、小諸厚生総合病院長の小林茂昭君が、昨年、日本で初めて米国メイヨー・クリニック（米国3大クリニックの一つ、自身は40年前にメイヨー医科大学院脳神経外科へ留学、6年間先端医療を学んだ）の「2005年学術業績功労賞」受賞の経緯と、上田高校時代の様々な体験の有意義を語ってくれた。

懇親会は、郷里から馳せ参じてくれた小山盛夫54期会会長が、今年は卒業50周年に当たり、10月に地元で盛大な式典を開催するので、大勢の参加を期待している旨の挨拶の後、乾杯の音頭をとって開宴、三々五々、時間の尽きるまで旧交を温めた。

あらためて、幹事の馬場武彦、倉島彰、市河富弘の3兄に感謝。（文責・杏掛文哉）

62期、修学旅行の奈良の思い出のホテルで同期会



62期は、還暦を迎えた記念行事として関東地区と関西地区の合同の同期会を奈良にて開催。紅葉真っ盛りの昨年11月19日（土）、関西地区幹事長の阿部百合子、関東地区からは岩井重一幹事長始め各クラス幹事及び夫婦同伴7組の計18名が1泊2日で参加しました。

会場は、我々が高校時代に修学旅行で宿泊した春日ホテル。40数年前の建物とは全く違って当時の面影はありませんでしたが、ホテルの前の広めの道路は遠い昔の記憶に残っていました。

卒業以来の再会になる人もいて、学生時代の思い出話に花が咲き、宴も盛り上がり、続いて夜の奈良繁華街へと繰り出し、全員参加してカラオケで奈良の夜を楽しみました。

初日の19日は、同期会の集合時間まで、ほとんどの人は紅葉シーズンの京都や奈良郊外を個人的に観光や散策で楽しんだようです。翌20日は、奈良在住の阿部、佐原両君による奈良市内の観光、散策（東大寺、興福寺、奈良市内の古い町など）を2コース、2グループに分かれて地元の人ならではの穴場を案内してもらい、奈良の町の古き良き時代に思いをはせながら、秋の一日を心ゆくまで堪能してきました。（秋田 勇・記）

に恵まれいまだに現役で仕事（不動産鑑定業）と週1回のゴルフに励んでいます。子ども達は巣立ち老妻と愛猫1匹と仲良く暮らしています。会報を頂く度に懐かしい思いが込み上げてきます。故郷の匂いがする会報を今後も続けられるようお願いいたします。

▼村田 忠雄(52) 古希になりました。近くにクラスメートもいますがなかなか会えません。週1回のママさんコーラス、畑の仕事、犬の散歩。歳をとるとワンパターンの生活になりがちです。

▼田村朗(54) 会報74号、カラフルに編集されている上に女性OBの活躍ぶりも数多く掲載されており頼もしい限りです。前田会長が自ら企画された「ストラディヴァリウスの夕べ」も家族で素晴らしい音楽を拝聴でき感激でした。これからも文化事業が定期的にを行うことができたら良いかと思っています。

▼濱村 邦夫(56) 56期生です。新潟、北海道、鳥取などを転動してきましたが、定年を機に埼玉に住んでいます。関東同窓会

への入会、よろしくお願ひします。

▼細田 義寛(59) 1月に群馬県安中に新居を完成し、東京練馬から離れました。

▼内堀 隆久(62) 日頃の活動ご苦労様です。ここ数年来、住居は地元ですが日々の仕事で都内の関係で関東同窓会の会員としてお世話になってきましたが、4月で退職となり、今後は地元同窓会に参加します。長い間ありがとうございました。今後とも関東のご発展をお祈りします。

▼宮入 従誠(63) 前号の企画、64期の方々の「団塊世代の喜びと悲しみ」を興味深く読ませて頂きました。（二つ違いの）63期なので共通の先生方や行事、店名など思い当たるものが沢山あって懐かし

く思いました。私たちが3年生の時、64期は2年生だったわけですが、生徒会の時などに活発に発言してどちらが上級生か分からず恥ずかしい思いをしたことを良く覚えています。中学のころから下級の2年生や1年生は元氣一杯だった団塊世代のパワーに今更ながら感じ入っています。

▼北原 巖男(64) 会員の皆様、65日絶えることなく咲いているあの沖繩の花のように、かけがえのない皆様お一人お一人、老若男女を問わず「みんな違ってみんないい」Only oneの人生の花を、今生き生きと咲かせていって下さい。現在進行形です。

Keep on smiling!
チャイミングソーリョー！
事務局の皆様、ご苦労さまで

す。（防衛施設庁長官として苦労されていきます。ご苦労さま）

▼上原 昇(65) 会報「うえだ」楽しく読みました。65期は昨年9月24日、（上田で開かれた）本部同窓会総会に幹事年として集合、先生も含め70名出席、このうち関東からも15名が参加しました。

▼中曾根三郎(65) 昨年初めて関東同窓会65期の忘年会に出席しました。12月4日、代官山でのコンサートに家内と行き、久しぶりに同窓会のアトホームな雰囲気接することができ、新会長、同期の幹事の人柄にも触れることができ楽しく過ごすことができました。

▼甲田 幹夫(65) 上田柳町にパン店「ル・ヴァン上田店」を開きました。2階には語らいの場も用意してあります。

▼安川庄太郎(65) 退職し長野へ帰郷します。関東から退会しますのでよろしくお願ひします。

▼塚原三喜夫(72) 今般故郷の信州に転居しました。長い間会報を送って頂きありがとうございます。会の益々の発展を祈ります。

▼清水 岳志(80) いつも会報ありがとうございます。転居しましたので住所変更をお願いします。

▼富山 英美(84) 長い間お世話になりました。家の都合で実家（坂城）に戻りました。今後ともよろしくお願ひします。会の発展を祈念します。（ありがたうございませした）

（短信は次ページに続きます）

六〇期《青春回帰の会》

六〇期 白井 透

変わらぬ絆と、いつまでも若くとの願いをこめた六〇期同期会はその名も《青春回帰の会》。その関東地区の春の集いが去る三月一六日に開かれた。

本格的な春の到来を告げる激しい嵐をものともせず、二〇数名が続々と集った。信州から同期会正副実行委員長の川上君、小山(美)さんも馳せ参じてくれた。

会場は、瞬時に世の憂さを忘れて青春に回帰した笑顔に溢れた。再会を喜び合い、若き日々の思い出に輝く顔の輪があちらにも、こちらにも。同じ空気を吸って共有した青春を今また満喫する。必然、話しぶりまでもが、ありし日のままに戻ってしまう。

特別参加の関東同窓会成田幹事長が、お祝いにと、贈ってくれたS・ウィルソンの詩「青春」はこの会にぴったりだ。「人から神から美・希望・よろこび・勇気・力の靈感を受ける限り君は若い」と詠われているように、深い感動が若さを恵んでくれる。

これからもより多くの参加を得て、青春に回帰するときを大いに楽しみたい。

▼塩野入清美(85) 現在フリーのヴァイオリン奏者で、オーケストラ、コンサートなどで活動しています。前田会長が貸与されているストラディヴァリィのコンサートがありましたらぜひ拝聴したいのでご案内頂ければ幸いです。住所が一部違っていませんので訂正願います。

(住所訂正しました。ストラディヴァリィの演奏会、今年も予定が分かり次第連絡します。同窓会にもお出かけください)

▼橋本 清香(95) 昨年は初めて関東同窓会総会に出席させて頂き、上田高校の歴史と先輩方のパワーを改めて感じました。同期を誘ってまた参加させて頂きたいと感じました。

▼鈴木 葉子(97) 社会人になって早くも1年が過ぎようとしています。就職先の会社の同じ部署に上田高校の大先輩がいらっしゃるってOBの厚さを感じています。(今年も室内楽班に登場してもらいます。先輩も誘って総会に参加してください)。

計報

心よりお悔やみ申し上げます。

山本 五助 (36期) H 18. 2. 22	佐藤 智彦 (50期) H 13	大塚 修三 (60期) H 17. 11
皆藤 義久 (36期) H 17	石井 正彦 (52期) H 17. 12. 5	半田 和夫 (63期) H 17. 3. 11
矢島 勇雄 (38期) H 18. 1. 2	塚田 進一 (52期) H 17. 12. 9	中村 豊 (64期) H 17. 11. 13
片山 敬 (40期) H 16. 10	寺井 蔵章 (52期) H 17. 12. 24	大塚 敦 (79期) H 17. 3
宮本 金三 (41期) H 17. 10. 27	荻原 邦穂 (59期) H 16	

◆運営基金拠出者 氏名

ご厚志有難うございます。

(平成17年4月1日～平成18年3月31日の拠出者)

55期 木村 和幸 (1万) 63期 中山 和彦 (1万) 66期 小山 茂 (1万)
 92期 橋本 真弓 (1万) (合計4人 4万円。)

◆寄付者 氏名

(平成17年4月1日～平成18年3月31日の寄付者。)

(氏名の前は卒業期・単位円。 合計24人 13万8千円。)

31 土屋 学 10,000	55 緑川 浩 8,000	62 内堀隆久 2,000	72 塚原三喜夫 5,000
33 中沢亮太 10,000	58 寺島知恵子 20,000	62 小出勝利 3,000	77 黒澤太平 10,000
48 春原 寛 10,000	58 寺島紘士 10,000	64 佐鳥利行 1,000	79 竹鼻ゆかり 10,000
49 新井通夫 1,000	59 荒井理夫 3,000	66 清水通男 1,000	82 長谷川 浩 1,000
49 宮坂 博 2,000	59 櫻井資悦 10,000	67 岩崎 章 1,000	101 橋詰 実 10,000
53 飯島秀也 4,000	60 白井 透 2,000	70 中村建哉 1,000	103 川村拓也 3,000

54期生の
みなさん...

50年前の「卵」が
この秋「祭」になる。



卒業50周年記念
同期会総会

10月24(火)・25(水)
エクシブ軽井沢

関東五四期会幹事団 / 有賀俊雄・石井光春・市河富弘・沓掛文哉・倉島 彰・黒川次郎・小市則夫・小堺一雄・神津勝重・関 正勝・竹重節雄・田村 朗・寺島重暉・中村 至・馬場武彦・馬場雄二・前田喜美子(いろは順)

松尾倶楽部にシンボルマーク誕生



松尾倶楽部

同窓生を中心に特色ある文化的活動を続けている松尾倶楽部は、今年、25年にわたり代表を務めた堀内惇さん(48期)から馬場武彦さん(54期)に代表のバトンが渡され、引き続き活発な活動を続けている。

この度30周年記念事業の一環として、シンボルマークを決定した。デザインは、同倶楽部会員で、著名なデザイナーの馬場雄二さん(54期)。馬場さんは制作意図を次のように語っている。

【制作意図】「マークは企業や会などをシンボリックに視覚表現するもので、5つの条件を常に意識しています。新生上田市章の選定・監修でもそうでしたが、『松尾倶楽部』では特に優れた

歴史・実績を認めた上で、それに偏ることなく未来への期待感を盛り込むことに留意しました。六文銭はモチーフとしてイメージ過ぎると思いましたが、『松尾』ならではの素材として生かし、しかし、回転させることにより、発展性・前向きな活気をイメージさせ、人(会員)の輪と和を実感させたいという制作意図が根底にあります。伝統と会員の年齢層を考慮してセピアにとも考えましたが、未来志向で『青春の色』ライトグリーンにしました。無論、生年月日での年齢ではなく精神的年齢での『若さ』です。」

【松尾倶楽部例会日程・会員以外の方もどうぞ】

- ・ 6月5日 宮坂啓象さん(東工大名誉教授)(49期)の講演会
- ・ 9月15日 浅草寺 清水谷孝尚貫首(36期)のお話と普段非公開の浅草寺伝法院の美術品と庭園の見学会。

連絡先 港区西麻布4-11-7-702(馬場武彦) FAX 03-3407-5008



「新生上田市」を祝う同窓生

3月6日に、上田市、丸子町、真田町、武石村が合併し、新しい上田市(母袋創一市長・70期)が誕生しました。そして、今、上田市では合併記念イベントが盛んで、同窓生も活躍しています。

←「立体デザイナー・服部みどり作品展」(3月)

女性誌や児童誌、教科書などで立体イラストを制作、クレイアーティストとして活躍中の服部みどりさん(81期)が作品をジオラマ展示。かわいくて、心温まるキャラクターと人気を博しました。上田の民話、小泉小太郎物語より「りゅうとこたろう」(講談社)

→波田野浩雲木版画展(4月)

木版画を専門に製作、国内、海外で数多く展示している波田野浩さん(55期)の作品展。



「信州塩田平一独鈷山と丸窓電車一」 57×80cm 木版・和紙

コスタリカ通信



コスタ・リカとは、スペイン語で「豊かな海岸」という意味です。今号も、在コスタリカ日本大使館専門調査員の橋本真弓さん(92期)にレポートして頂きました。

コスタリカは、南北アメリカを結ぶ地峡に位置し、日本の四国と九州を合わせたほどの広さを持つ中米の小国だが、非常に自然が豊かな国である。地球上の陸地のわずか0.034%の面積の国土に、全世界の動植物の5%もの種が生息している。東西はカリブ海と太平洋に挟まれ、中央には山脈が走っており、多様な気候を備えている。コスタリカの自然はまさに地球の財産であり、これを保護するためコスタリカ政府は国土の4分の1を自然保護区に指定している。この財産を守るだけでなく、世界中の人々と共有し、そしてコスタリカ国民の経済発展にも活用させるためエコツーリズムが発展してきた。『無添加の国、コスタリカ』をスローガンに観光促進を行い、年間外国人旅行客数は170万人に上り、観光ハイシーズンである乾季(12月~4月)の今、首都サンホセ市内のホテルはもちろん、多くの観光スポット

は老若男女を問わず欧米人で賑わっている。

一方、日本ではまだまだ遠い、不便、高いといったイメージが強いようで、年間6,000人弱の観光客を受け入れているに留まっている。そこで、いくつか魅力的なコスタリカの横顔をご紹介します。

大自然の中で時間を忘れた方には、手塚治虫の長編漫画『火の鳥』のモデルとなった「ケツァール」観察散策、ホエール・ウォッチング、ウミガメの産卵ツアー、アレナル火山にあるタバコン温泉などがお勧め。じっとしてられない方には、ラフティング、ジャングルの上を飛ぶ感覚のスカイトレック、映画『エンドレスサマー』の舞台となりその醍醐味が保障されているサーフィン、さらに映画『ジュラシックパーク』の舞台となったココ島でのダイビングなど満載である。

1948年の軍隊廃止や1982年の非武装永世中立国宣言を通じ平和文化(治安の良さ)が構築されている。百聞は一見にしかず。一人でも多くの方を、ようこそコスタリカへ!と迎えたい。コスタリカと日本の友好関係強化のために仕事する者として、観光を通じての両国民交流や相互理解が育まれることを期待してやまない。

ナマケモノ →

